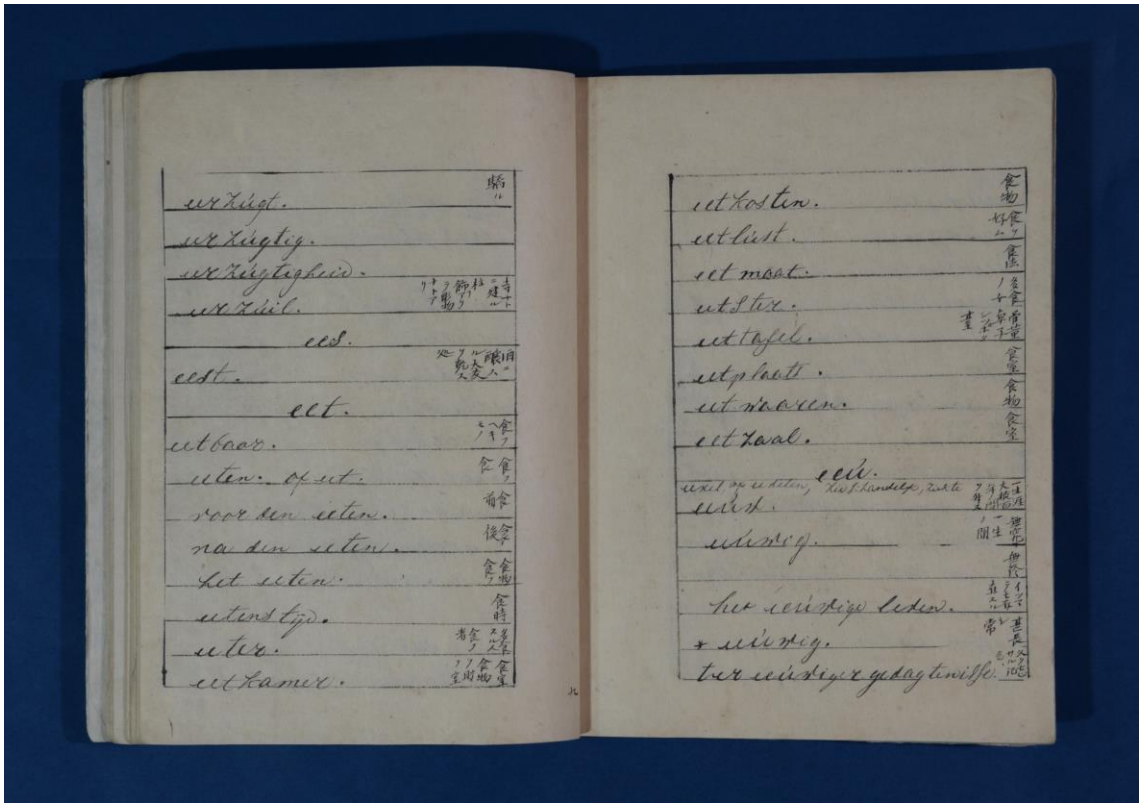
2025 年 5 月の資料紹介



ハルマ和解（写本）国重要文化財

日本初の蘭和辞書で寛政 8（1796）年に完成し、その後江戸で出版されました。大槻玄沢の門下生稲村三伯が元オランダ通詞の石井恒右衛門などの協力を得て、オランダの出版者フランソワ・ハルマの『蘭仏辞典』の第 2 版を基にして編集しました。各頁 1 段組 15 行、見出し語を木活字印刷、訳語を手書きし、約 60,000 語、全 27 冊 30 部を刊行しました。表紙には “F:HALMA,NEDERDUITS WOORDENBOEK” と記され、和名の表記がなかったため、玄沢が『前蘭後和東西韻解』と名付けましたが、『ハルマ和解』と呼称され、写本には『波留麻和解』や『法留麻和解』と記されるか、オランダ語で印刷された題箋が貼られました。また、後に刊行される『ヅーフ・ハルマ』を「長崎ハルマ」と呼ぶのに対して、こちらは「江戸ハルマ」と呼ばれました。これらの辞書は、当時蘭学を志す者には欠かすことのできない辞書でした。当館所蔵のものは、「e」冊（e から始まる単語を掲載）の写本です。

【参考文献】

高野長英記念館『高野長英記念館展示図録』（2019）

『洋学史研究事典』（2021、思文閣出版）